

第6学年 体育科学習指導案

日 時 平成22年9月2日（木） 3校時

場 所 体育館

児 童 6年3組（男子15名 女子13名 計28名）

指導者 真壁 岳夫

1. 単元名 「強く大きく美しく！跳び箱運動」（B 器械運動 ウ 跳び箱運動）

2. 目標

〈関心・意欲・態度〉

- ・ 友だちと協力しながら学習に取り組み、教え合ったり励ましあったりしながら学習を進めようとする。
- ・ ルールやマナーを守り、安全に留意しながら進んで運動に取り組もうとする。

〈思考・判断〉

- ・ 自分やグループの課題を見つけ、技のポイントを意識したり練習の仕方を工夫したりしながら運動している。

〈技能〉

- ・ 基本的な回転系の技である安定した台上前転や大きな台上前転ができる。

3. 単元について

（1）教材について

「器械運動」は、器械・器具を使った「技」に取り組んだり、それを達成したりした時に楽しさや喜びを味わうことができる運動領域である。また、より困難な条件の下でできるようになったり、より雄大で美しい動きができるようになったりする楽しさや喜びがある。

「跳び箱運動」は、安定した動作で、いろいろな高さや向きの跳び箱を跳び越したり、跳び越し方を工夫して挑戦したりすることが楽しい運動である。また、一人ひとりができる技を組み合わせ、調子を合わせて集団で演技に取り組むことを楽しむことができる運動である。

（2）児童の実態について

体育の学習に意欲を持って取り組む児童が多い。男女共に運動能力が高い児童が数名おり、今年度の陸上記録会や水泳記録会で活躍した。一方、全体的に運動能力があまり高くなく、体育に対して苦手意識を持っている児童が男女共に数名いる。

1学期の鉄棒運動では、1名の児童が逆さになることや前まわり下りを怖がりできなかったが補助をしながらくり返し練習することで自分の力でできるようになった。また、学級の三分の一程度は逆上がりができないが、自転車のゴムチューブなどの補助具を使うことで出来るようになり、少しずつ自信を持ちながら意欲的に練習を行った。

5年生の跳び箱運動では、基本的な切り返し系の技と回転系の台上前転を学習し、台上前転の発展技の首はね跳びや頭はね跳びに挑戦した児童もいる。7月に児童の技調べ（実態調査）を行ったところ、技ができている児童は、開脚跳び26名、抱え込み跳び8名、台上前転20名、首・頭はね跳び6名という結果であった。どの技についても一連の動きとしてスムーズに跳び越えた

り、安定した着地をしたりすることができていない児童が少なくない。

跳び箱運動に対して、跳び箱の高さや、台上で回転することに怖さを感じている児童はいるが、「上手に跳ねることができるようになりたい」「きれいな台上前転ができるようになりたい」等、跳び箱運動の学習に対し前向きな気持ちを持っている児童が多い。

(3) 指導について

本単元では、安定した台上前転と大きな台上前転ができるように、そして発展技のはね跳びに挑戦できるようにするために、基礎的な感覚や動きづくりを大切にする。跳び箱セットメニューとして①ステージへの跳び上がり・回転下り、②壁のぼり逆立ちからの前転、③うさぎ跳びからの前転 ④手押し車からの膝伸ばし前転、⑤馬跳び20秒、⑥アンテナブリッジを単元を通して取り入れていく。

主運動の際には、自分の課題を解決するための練習の場や練習方法を選ばせたり、技のポイントを考えさせたりする。そのために、今自分がその技のどの段階までできていて、次の課題は何か分かるような資料を提示する。

学習のまとめとして「集団跳び発表会」を設定する。その発表会に向け、毎時間集団跳びの練習をする時間を設定する。初めは開脚跳びでの8の字跳びから始め、個々の技の習得状況に応じて取り入れる技をグループで相談し、集団跳びのバリエーションも増やしていく。集団跳びに取り組むことで、グループで技を高める必要感が生まれたり跳び箱運動への意欲が高まったりすると考える。

グループは、技能や意欲を考慮した男女混合4～5名ずつの異質グループでセットメニュー・基本的な技の学習・集団跳びを行う。基本的な技の学習では、異質グループで課題を解決する活動を取り入れ、できるようになるコツを探究させることで、技の仕組みやポイントが見つけれられるようにする。発展学習では、同質グループで練習の場や段階を選び互いに教え合い励まし合いながら共に高め合えるようにする。

【研究とのかかわり】

〈本授業での重点テーマ〉

① 教材及び単元計画の工夫・改善

- ・ 単元を通して安定した台上前転・大きな台上前転に取り組むことで、できた喜びや出来栄への美しさを味わわせたい。
- ・ 集団跳びを毎時間の学習に位置付け、友だちと合わせる喜びや楽しさを味わわせると共に、調整力を高めさせる。

② 運動ポイントの活かし方

- ・ セットメニューが基礎的な動き・基本的な技になっていることを理解させ、運動のポイントを考える時のヒントとする。
- ・ 児童がポイントを理解し、意識して練習できるような場を設定する。

③ 運動の特性に即した活動の取り入れ方

- ・ 技の系統性に即して基礎的な感覚づくりや動きづくりをし、児童の技能を高めていきたい。
- ・ 今自分がその技のどの段階までできていて、次の課題は何か分かるような学習の進め方をしたり資料を準備したりし、児童が見通しを持って意欲的に学習に取り組めるようにする。

4. 評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
内容のまとめりのことの評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・器械運動の楽しさや喜びを求めて進んで取り組もうとする。また、互いに協力して運動をしたり、器械・器具の安全な使い方に注意して運動をしたりしようとする。(出典：国研) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力に合った課題の解決を目指して、練習の仕方を工夫している。(出典：国研) 	<ul style="list-style-type: none"> ・マット運動、鉄棒運動、跳び箱運動の特性に応じた技能を身につけている。(出典：国研)
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力に合った課題をもって進んで取り組み、器械運動の楽しさを味わおうとする。 ・約束を守り友だちと助け合っ技の練習をしたり、器械・器具の片付けで分担した役割を果たそうとしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力に合った課題を見つけている。 ・自分に適した練習の場や段階を選んでいる。 ・技のポイントや自分の課題について考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力に合った技や新しい技に取り組み、安定した動作で跳び越すことができる。
学習活動における評価規準	≪1～4時間目≫ <ul style="list-style-type: none"> ・安定した台上前転や大きな台上前転ができることを目指し進んで取り組もうとする。 ・助け合っ技の練習をしようとする。 ・場や跳び箱などの安全を確かめようとする。 	≪1～4時間目≫ <ul style="list-style-type: none"> ・安定した台上前転や大きな台上前転のポイントを理解している。 ・安定した台上前転や大きな台上前転ができるための課題を解決する場や段階を選んでいる。 	≪1～4時間目≫ <ul style="list-style-type: none"> ・安定した台上前転や大きな台上前転ができる。
	≪5～8時間目≫ <ul style="list-style-type: none"> ・自分の力に合った技を選び、進んで取り組もうとする。 ・集団跳びの技や構成を話し合い、練習しようとする。 	≪5～8時間目≫ <ul style="list-style-type: none"> ・自分の力に合った技を選び、練習の場や段階を選んでいる。 ・集団跳びの技や構成について考えている。 	≪5～8時間目≫ <ul style="list-style-type: none"> ・安定した台上前転や大きな台上前転ができる。

5. 指導計画

時	1	2	3	4 (本時)	5	6	7	8
15	オリエンテーション ・学習のねらい	セットメニュー(①ステージへの跳び上がり・回転下り ②セーフティマットへの前転 ③うさぎ跳びから前転 ④手押し車から膝伸ばし前転 ⑤馬跳び ⑥アンテナブリッジ)						
30	・学習の進め方 ・セットメニュー	<基本> 安定した台上前転大きな台上前転					グループ跳び発表会	
	・場づくり ・安全の約束	<発展>首はね跳び 頭はね跳び			グループ跳び			
45	学習の振り返り							

6. 評価の計画

時間	主な学習活動	学習活動における具体的評価規準 (B:概ね満足できる状況) A:十分満足と判断できる状況		
		関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能
1	・オリエンテーション ・学習の見通しを持つ。 ・授業の流れを把握し、約束事を確認する。		・学習のねらいや進め方を理解し(A:見通しを持つ)てる。	
2 ~ 4	・安定した台上前転・大きな台上前転の基礎技能を身につける。	・(A:自ら進んで)準備や後片付けで分担された役割を果たそうとする。[観察] ・技のポイントについて教え合ったり補助し合ったりしながら(A:積極的に)練習しようとする。[観察]	・安定した台上前転や大きな台上前転のポイントについて、(A:自分の体験や動きを基に)考えている。[発言・ノート]	・安定した台上前転や大きな台上前転ができる。 [観察]
5 ~ 8	・自分に合った技を選び挑戦する。 ・集団跳びの構成を考え練習する。	・自分で選んだ技の学習に(A:自ら進んで)取り組もうとする。[観察] ・(A:積極的に)集団跳びの技や構成を話し合い、練習しようとする。[観察]	・自分の力に合った技を選び、(A:技のポイントを考えて)練習の場や段階を選んでいる。 ・集団跳びの構成や技の組み合わせなどを(A:学習資料を参考に)工夫している。 [発言・ノート]	・安定した台上前転や大きな台上前転(A:及び発展技)ができる。 [観察] ・リズムやタイミングを合わせて(A:大きな動作で)演技を行うことができる。 [観察]

<p>努力を要する状況に対する支援の手立て</p>	<p>・準備や後片付けの仕方を具体的に教える。 ・励ましたり賞賛したりしながら学習に取り組ませる。</p>	<p>・できる段階にフィードバックしたり、できている友だちの演技を見せたりしながら指導する。</p>	<p>・補助をする。 ・スモールステップの前の段階に戻って練習させる。</p>
---------------------------	---	--	---

7. 本時の指導

(1) 本時の目標 (4/8)

・安定した台上前転や大きな台上前転をすることができる。[技能]

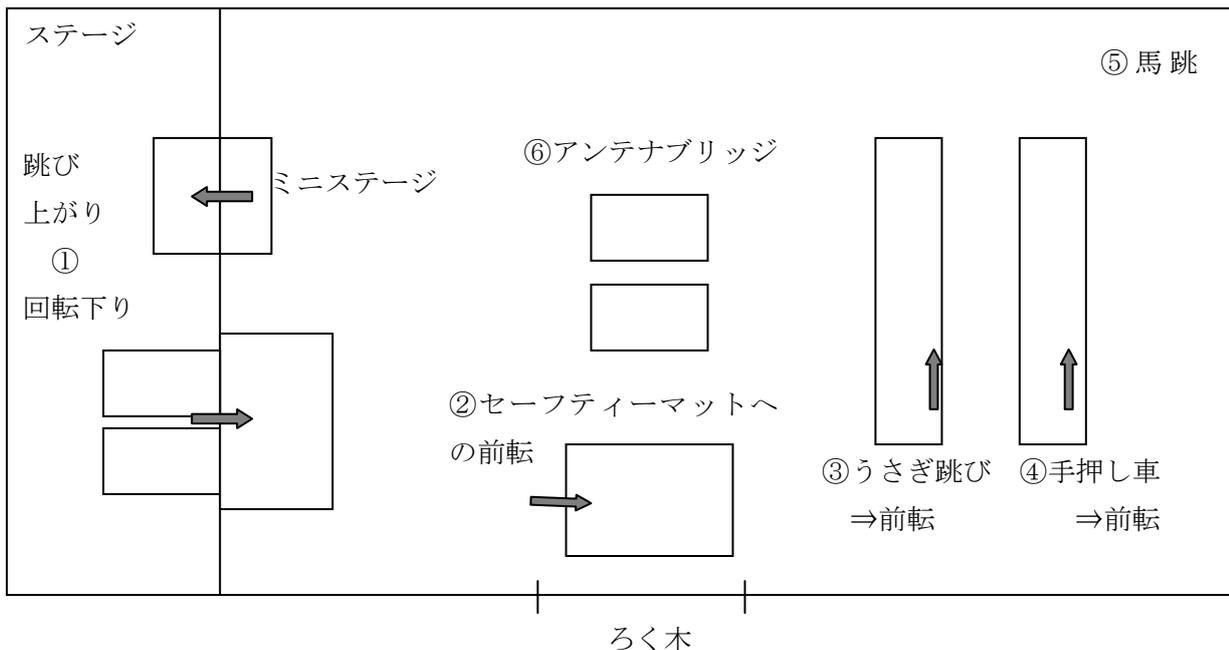
(2) 展開

段階	学習活動	時間	指導・支援上の留意点 (○) 研究に関わる手だて (◎) 評価規準 (☆) 評価方法 (*)	用具資料
導入	<p>1. 場づくり・挨拶</p> <p>2. 学習内容の確認</p> <p>3. セットメニュー [場1] ・ステージへの跳び上がり・回転下り ・手押し車 ⇒膝伸ばし前転 ・うさぎ跳び⇒前転 ・低い台上での前転 ・馬跳び ・アンテナブリッジ</p>	12	<p>○事前に健康観察、服装、用具、場所の安全を確認しておく。</p> <p>○跳び箱セットメニューの場づくりをし、終わり次第挨拶をさせる。</p> <p>○本時の学習を確認する。(課題は教室で体育ノートに記入させておく)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">膝を伸ばして大きな動作で台上前転をしよう</div> <p>○セットメニュー6種類をグループごとにローテーションで行う。</p> <p>○アンテナブリッジの補助を中心に行う。</p> <p>○ステージからの回転下りではね動作ができていない児童を褒める。</p> <p>○手押し車⇒前転 背中を丸めて前転し、膝を抱えて起き上がるようにさせる。</p> <p>○低い台上での前転⇒両足で踏み切って回転させ、主運動につながるようにする。</p> <p>○うさぎ跳び⇒前転 両手で体重を支えてから、腕を曲げ頭を入れて前転をする。</p> <p>◎各運動を正確に行わせ、基礎的な能力や感覚を高められるようにする。</p>	<p>ノート</p> <p>筆記用具</p> <p>跳び箱</p> <p>踏み切り板</p> <p>ロイター板</p> <p>マット</p> <p>エバーマット</p> <p>CD</p>

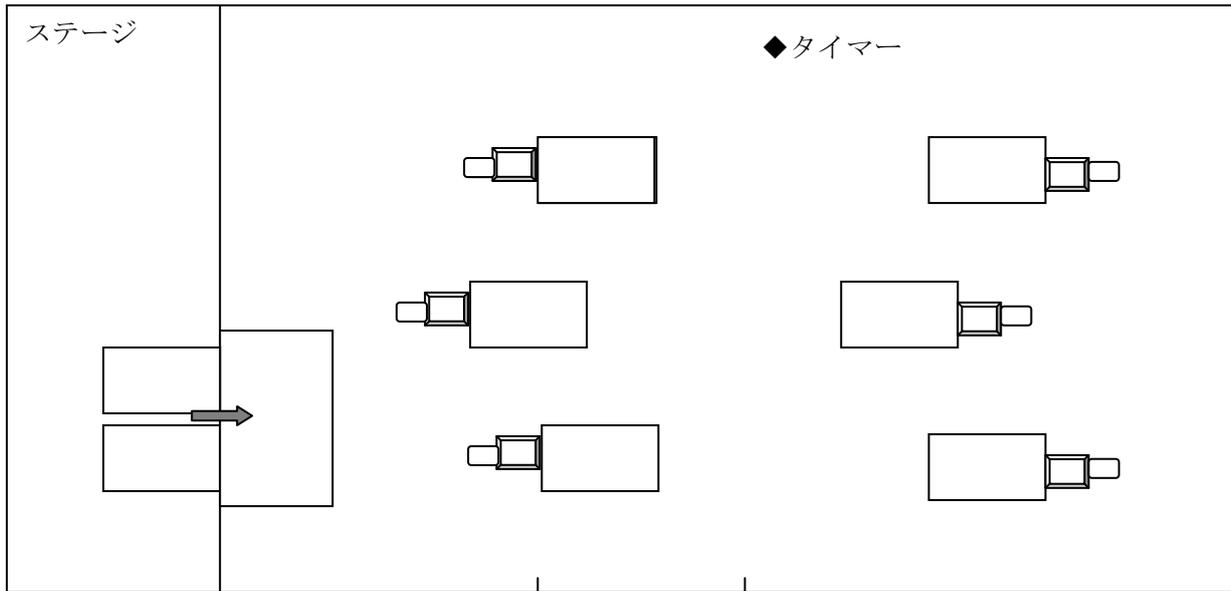
展開	4. 安定した台上前転、 大きな台上前転の練習 [場2] 5. 首はね跳び・頭は ね跳びの練習		◎グループごとに練習に取り組みさせる。今まで学習したポイントをもとに見てほしい点を仲間に伝えアドバイスし合うようにさせる。 ☆安定した台上前転や大きな台上前転をすることができる。 ○自分に合った技と場を選ばせ、同質ペアで補助したりポイントをもとにアドバイスさせたりする。	ゴム+鈴 枕
展開	6. 集団跳びの練習	28	◎グループで考えた集団跳びを練習させる。その際、安定した台上前転や大きな台上前転を共通課題として入れるようにさせる。できるようになった技も積極的に取り入れるようにさせる。 ○集団跳びのパターン例を参考にさせる。 ○演技は1分程度とし、タイミングやリズムを取りやすくするため音楽を利用する。 ○1つ1つの技を丁寧にできるようにさせる。	C D
終末	7. 学習のまとめ 8. 挨拶・後片付け	5	○本時を振り返り、技の出来ばえについて自己評価させる。	ノート 筆記用具

8. 場の設定

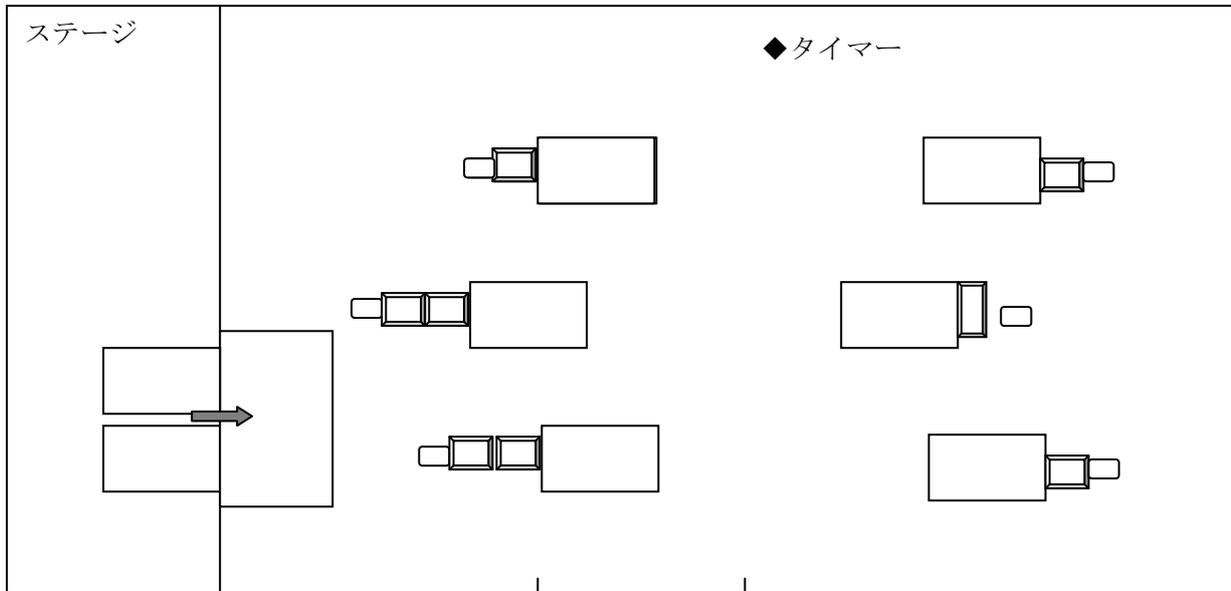
[場1]



[場2]



[場3]



[場4]

